[成果情報名]ブドウ「シャインマスカット」の果粒肥大を促進させる生育条件・新梢管理方法

[要約]ブドウ「シャインマスカット」は、着房位置の葉が大きく、開花期の副梢葉枚数が多い新梢や、新梢先端側の花穂に優先して着果させると果粒肥大が良い。開花期の副梢葉枚数が中程度（７枚）以上の新梢では、摘心後発生する副副梢を適宜摘除すると果粒重が大きくなる。

[キーワード]シャインマスカット、果粒肥大、摘心、新梢管理

[担当]茨城県農業総合センター園芸研究所果樹研究室

[代表連絡先]電話 0299-45-8340

[区分]関東東海北陸農業・果樹

[背景・ねらい]

茨城県において、ブドウ新品種「シャインマスカット」は一粒重 15g 以上を高品質果実の目標としており、果粒肥大を促すために摘心栽培を推奨している。そこで、摘心栽培における「シャインマスカット」果粒が肥大する条件を明らかにし、栽培管理に役立てる。

[成果の内容・特徴]

１．開花期における着房節の葉身長が大きいと、果粒重が大きくなる（図１）。

２．新梢を着房節の先５枚を残して摘心し、果房より先端側の副梢を１節当たり１枚、基部側の副梢を１節当たり５枚で管理した場合、開花期における果房より基部側の副梢枚数が少ないと、果粒重が小さくなることが多い（図２）。

３．着房節３節目の新梢と比較して、着房節が５節目の新梢では着房節の葉身長が大きく、開花期の副梢枚数が多い（図１・２）。着房節が先端側になるに従って果粒重が大きくなる（図３）。

４．開花期の副梢枚数が中程度～多い新梢では、新梢や副梢を摘心した後発生する副副梢を適宜摘除すると、副副梢を放任した場合と比較して果粒重が大きくなる（図４）。副副梢を放任すると開花期の副梢枚数による果粒肥大の差がなくなる（図４）。

[成果の活用面・留意点]

１．本成果は、短梢剪定平行整枝栽培において、新梢を着房節の先５枚を残して摘心し、果房より先端側の副梢を１節当たり１枚、基部側の副梢を１節当たり５枚で管理した結果である。

２．茨城県において、「シャインマスカット」の収量は 1.8t/10a を目安としている。葉身長が大きく、副梢枚数が多く、形のよい花穂を優先して残し、生育の悪い新梢の花穂は早めに摘除する。

３．１新梢に２つ以上花穂が着生した場合、基部から離れた花穂を残して１新梢１花穂に整理する。ただし、花穂の形が極端に悪い場合は、花穂の形の良い方を優先して残す。

［具体的データ］

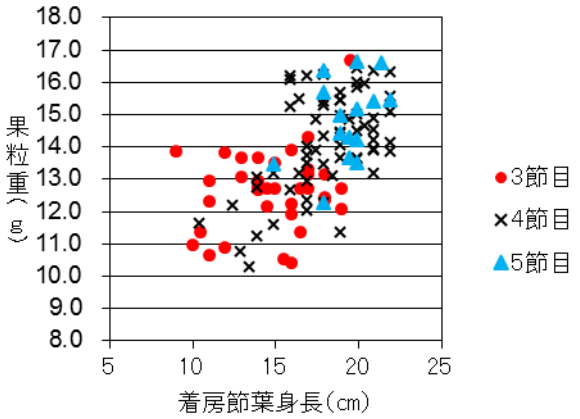

図１「シャインマスカット」着房節葉身長と果粒重（2010～2012）

凡例は着房節を示す。供試樹は無加温パイプハウス内根域制限栽培・短梢剪定平行整枝（７～９年生）

r_s=0.618（p<0.001）

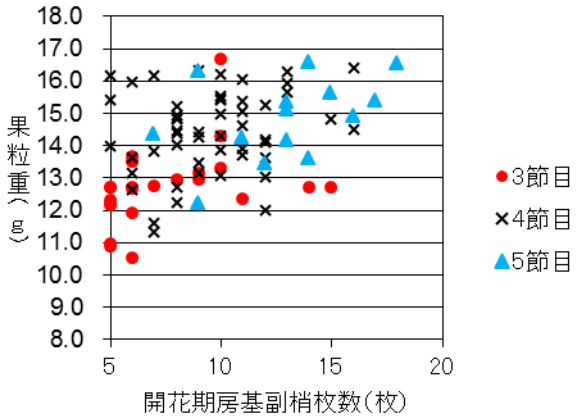

図２「シャインマスカット」開花期房基副梢枚数と果粒重（2010～2012）

凡例は着房節を示す。供試樹は無加温パイプハウス内根域制限栽培・短梢剪定平行整枝（７～９年生）。新梢は房先５枚で摘心し、着房位置より基部の副梢を１節当たり５枚、着房位置より先の副梢を１節当たり１枚で管理

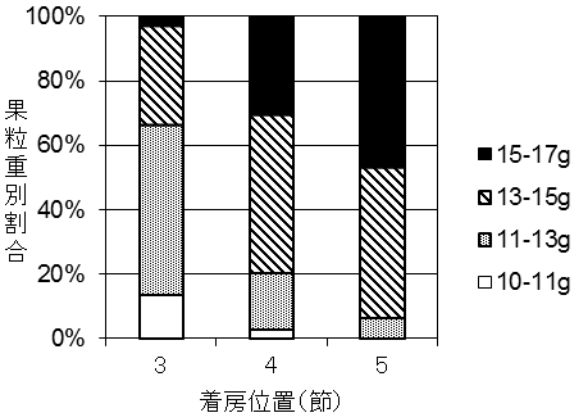

図３「シャインマスカット」着房節と果粒重（2010～2012）

供試樹は無加温パイプハウス内根域制限栽培・短梢剪定平行整枝（７～９年生）。データ数は着房位置３節目が36房、４節目が63房、５節目が15房

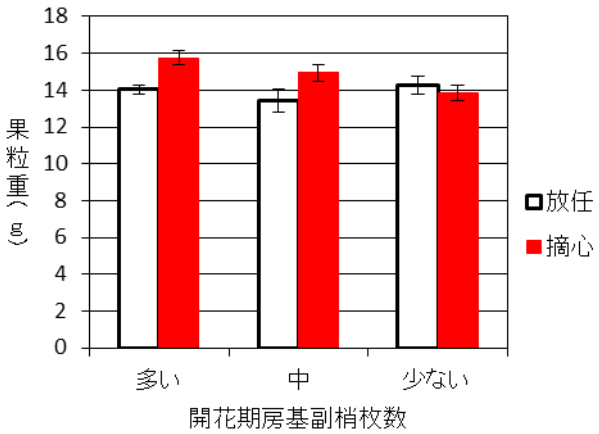

図４　「シャインマスカット」の開花期房基副梢枚数および新梢管理方法と果粒重（2011）

供試樹はトンネル栽培・短梢剪定平行整枝 14 年生。開花期の房基部副梢枚数の平均は、多い：14 枚、中：７枚、少ない：２枚であった。図２と同様に摘心を行い、摘心区は発生した副副梢を適宜除去し、放任区では開花期以降８月まで副副梢を放任した。エラーバーは標準誤差（n=8）。

［その他］

研究課題名：　ブドウ「シャインマスカット」高品質安定生産技術の開発

予算区分：　県単

研究期間：　2009～2012 年度

研究者担当名：田中舘志都、門脇伸幸、多比良和生、清水明